



古澤教諭の周りには「なんだ、なんだ？」と現地のかわいい子どもたちが、あっという間にたくさん集まり、スクリーン越しに二宮中の1年生と交流しました。

◎教室がケニアとつながる◎

昨年7月より JICA 青年海外協力隊員としてケニア共和国に派遣されている本校の古澤教諭が、2月1日（木）と13日（火）、1年生社会科の授業に登場しました。1年生は「世界の様々な地域～アフリカ州～」の自然環境・歴史文化・経済・課題とその取組を学習しています。現地ではよくあるという停電のために急遽、日程が変更されることもありましたが、各クラス1回ずつ、無事にオンラインでケニアとつながりました。

ケニアでの生活にすっかり慣れ親しみ、その大自然を満喫している古澤教諭。働いている学校は年中～中学2年生が600名ほど在籍し、1クラス約40名。20名分の机と教科書を共有して使っているそうです。中学生は語学の習得にたいへん意欲的で、皆、3言語（部族後・スワヒリ語・英語）が使える、さらに外国語を学んでいるとのこと。文化の特徴や日本政府の具体的な支援の状況についての話もあり、ケニアが辿ってきた歴史や日本とのつながりについて考える契機にもなりました。

◎手羽の骨格標本づくりに挑戦◎

3年生は、理科の授業でニワトリの手羽の骨格標本づくりに挑戦しました。ヒトとニワトリの骨格を比較し、見かけの形や働きは異なっている、起源は同じであるという「相同器官」について振り返ります。2年生で学習した筋肉や骨の働きについても良い復習になりました。入れ歯洗浄剤や糸ようじなどを使って手羽を扱う一人ひとりの真剣なまなざし。「うわっ!」「できた!」と弾む明るい声、うれしそうな表情。次週に公立高入試を控えた緊張感高まる時間の連続の合間に、何とも言いえない新鮮な心地よい風が理科室を吹き抜けました。

◎小学生とステンドグラスづくり◎

2月14日（水）二宮小学校の特別支援級の6年生が来校し、本校の特別支援級の生徒と共にステンドグラスづくりに取り組みました。汐鳴祭文化の部で制作されたステンドグラスの作品を傍らに置いてイメージをふくらませながら、当日のバレンタインデーにちなんだデザインをカッターで切り抜いて染められた和紙を貼っていきます。一つひとつ色づかいの異なる味わい深い素敵な作品が次から次へと完成。最後に、二宮小学校に植えられた桜を皆で摘んで作ったという桜茶が、温かいメッセージと共に卒業を控えた中学3年生にプレゼントされました。年間を通してオンラインや体育館で度々交流してきた特別支援級の小中学校のつながりが、ここでまた深められたと感じました。



6年生の卒業制作にステンドグラスの技法を用いるために企画されたこの時間。汐鳴祭文化の部のステンドグラスを小学校に飾っていただいたばかりか、このような形で新たに引き継がれたことは、喜ばしいことです。

◎3年生の防災体験学習◎

2月21日（水）本校の体育館で3年生を対象とした防災体験学習が行われました。まず、能登半島地震の被災地で活動した町役場と消防の方2名のお話をうかがい、さらに提示された二宮町のここ数年の台風被害状況の写真に、多くの生徒が自然災害を自分事と捉えることができたようです。そして充満した煙の中を歩く体験、水消火器の操作、心肺蘇生法、避難所内のテントや仮設トイレ設営等の体験をしました。「災害は怖いけれど、今では適切に対処すれば落ち着いて行動できると感じている。」という3年生の感想にもあるように、今回の体験を通して、災害に備えて訓練することの大切さを学びました。

多大なるご協力をいただきました二宮町防災安全課・二宮町消防の皆様、企画・運営に携わっていただきましたPTA本部役員の皆様、ありがとうございました。